

学会・シンポジウム情報

2002 秋季藻類シンポジウムのご案内

「新しい海藻由来の製品の科学的検討」

海藻は、伝統食品として日本人の健康に大きく関わっており、その効果が科学的に解明して価値が再認識されている。さらに、海藻の抽出成分を素材にした健康・化粧品が注目されており、海藻多糖類の寒天、カラギナン、アルギン酸の利用も多様な分野にわたっている。しかし、私達は身近な製品が海藻由来のものであることを知らない。

そこで、最新の海藻由来の素材・製品を科学的に紹介して、その効能を知り、海藻が21世紀の資源として利用の可能性を、一般の方々にも理解できるように講演される。進んでご参加、ご聴講下さい。

日 時：平成14年12月6日（金曜日）
午後1時より5時、シンポジウム終了後懇親会
場 所：ロイヤル・パークホテル
（東京・日本橋、地下鉄半蔵門線、水天宮駅隣接）

参加費：シンポジウム無料（講演集1,000円）
懇親会：8,000円

共 催：日本藻類学会、マリンバイオテクノロジー学会、日本海藻協会

参加・問い合わせ先：

日本海藻協会事務局：大野正夫
（高知大学海洋生物教育研究センター）

TEL& FAX：088-856-0462 E-mail: mohno@cc.kochi-u.ac.jp

会場準備のために、シンポジウムと懇親会参加者は、10月末日までに上記の事務局へで御連絡下さい

2002 年度「藻類談話会」のお知らせ

「藻類談話会」は藻類を研究材料とする幅広い分野の研究者の集まりで、西日本を中心に講演会や研究交流を行っています。今年度は以下の講演を企画しています。ふるってご参加くださいますようご案内申し上げます。

日 時：2002年11月9日（土）13:00-17:00
場 所：京都大学農学部総合館 W-524 号室
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

講演予定（敬称略）

坂東忠司（京都教育大・教育）：

ハウネンエビと共に生きる藻類

大城 香（福井県立大・生物資源）：

ラン藻の窒素固定

左子芳彦（京都大院・農）：

有毒渦鞭毛藻の遺伝子診断法の開発

伊藤裕之（神戸市水道局・水質試験所）：

浄水処理障害の原因となる藻類について

吉田吾郎（水産総合研究七瀬戸内海区水研）：

広島湾におけるホンダワラ類の生態研究と藻場造成

参加費：500円（通信費など）

談話会終了後、北部キャンパス内生協2階「ほくと」で懇親会を行います。会費：一般3,500円、学生1,500円。

談話会および懇親会の参加希望者は10月28日(月)までに電子メールかファックスで下記の宛先へお申し込みください（当日参加も可）。また最新情報は下記ホームページに適宜、掲示しますのでご覧ください。

*会場への道順

市バス「百万遍」下車徒歩約5分、または「農学部前」下車すぐ。京阪出町柳駅から徒歩約15分。

参加申込・問合先

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

京都大学総合人間学部自然環境学科 幡野 恭子

TEL：075-753-6854 FAX：075-753-6864

e-mail：hatano@bio.h.kyoto-u.ac.jp

2002年度藻類談話会ホームページ：

<http://biotech1.nikkeibp.co.jp/100HP/>より「バイオ・基礎医学関係者の皆のホームページ」→「学会・研究会」の項目をお選び下さい。